

《担当者名》組織再建口腔外科学分野

教授 / 志茂 剛 shimotsu@ 教授 / 奥村 一彦 kokumura@
 助教 / 武田 成浩 t-shige@ 助教 / 淀川 慎太郎 yodogawa@ 助教 / 平木 大地 daichi0530@
 助教 / 堀江 尚弘 horien@

顎顔面口腔外科学分野

教授 / 永易 裕樹 nagayas@
 助教 / 佐々木 智也 t-sasaki@ 助教 / 南田 康人 minamida@ 助教 / 原田 文也 f-harada93@
 助教 / 久原 啓資 k_kuhara@

口腔再生医学

教授 / 村田 勝 murata@

准教授 / 松岡 紘史 mazun@ 兼任講師 / 飯泉 智子 i-zumi@ 非常勤講師 / 原田 尚也、芦田 眞治、佐々木 朗

【概要】

口腔外科学は、口腔を構成する組織、器官を含んだ顎顔面領域で発症する疾患を対象として、主に手術療法の対象となる疾患の診断と治療を理解し、機能的、形態的回復を通じて、患者の全身の健康の維持や回復に寄与するための処置と手術の基本について学ぶ。

【学修目標】

- 口腔・顎顔面領域における各種疾患を診察、検査、診断及び治療について説明する。
- 口腔・顎顔面領域における先天異常・発育異常及び症候群を診察、検査、診断及び治療について説明する。
- 口腔・顎顔面領域における損傷について診察、検査、診断及び治療について説明する。
- 口腔・顎顔面領域における炎症性疾患の特徴と病因及び診断・治療の基本的概念について説明する。
- 口腔・顎顔面領域における嚢胞の発生、嚢胞性疾患の症候、病態、診断及び治療法について説明する。
- 口腔・顎顔面領域における良性腫瘍の発生と経過、症状、病態、診断及び治療法について説明する。
- 口腔・顎顔面領域における悪性腫瘍の症候、病態、診断及び治療法について説明する。
- 唾液腺疾患の特徴と病因、診断及び治療法の基本的概念について説明する。
- 顎関節の構造と機能、顎関節疾患の症候、病態、診断及び治療法について説明する。
- 口腔・顎顔面領域における血液疾患（貧血、出血性素因、白血病等）の病態とスクリーニング検査法について説明する。
- 口腔粘膜疾患を症状別に列挙してその病態、診断及び治療法について説明する。
- 口腔・顎顔面領域における神経痛と神経麻痺の症状、病態、診断及び治療法について説明する。
- 口腔・顎顔面領域における機能障害の症状、病態、診断及び治療法について説明する。
- 口腔・顎顔面領域に症状を現す全身疾患の特徴、病因、診断及び治療法について説明する。
- 心と体は密接に関連していることを理解し、心因性疾患の基本的概念について説明する。
- 外科手術の基本的な考え方と手術手技とともに、疾患に対する手術法とその術後経過について説明する。
- 医科歯科連携医療と社会が求める歯科医療サービスについて説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	口腔外科を学習するにあたって	口腔外科を学習するにあたって、一般目標、行動目標を達成するために必要な基本的な知識・態度・技能を概説できる。	永易 裕樹
2	医療面接と注意が必要な既往歴	医療面接について概説できる。 医療面接に際して、注意が必要な既往歴について概説できる。	永易 裕樹
3	口腔外科診療の基礎・診察法	診察に必要な事項を列挙し概説できる。 視診、触診及び打診等によって患者の現症を的確に捉えて各を概説できる。	永易 裕樹
4	臨床能力と臨床判断	口腔外科で必要となる臨床能力として、知識、情報収集能力、総合的判断能力、技能、態度について概説できる。また、確定診断に至る過程の臨床判断について概説できる。	奥村 一彦
5	主要な症候	全身の症候として、発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害について概説できる。	奥村 一彦
6	主要な症候	全身の症候として、脱水、浮腫、けいれん、めまい、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、	奥村 一彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		胸痛、睡眠障害、嘔吐、下痢について概説できる。	
7	先天異常と発育異常	口腔・頭蓋・顎顔面領域に症状をきたす主な先天異常の診断と治療について概説できる。 口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常(不正咬合)の診断と治療について概説できる。	奥村 一彦
8	口唇・口蓋裂	口唇・口蓋裂の病態について概説できる。 先天性鼻咽腔閉鎖不全について概説できる。	奥村 一彦
9	口蓋裂言語と治療	構音器官としての口腔形態と機能を概説できる。 口蓋裂に伴う言語障害について概説できる。 先天性鼻咽腔閉鎖不全について概説できる。	飯泉 智子
10	口唇・口蓋裂の手術	口唇・口蓋裂の治療方針とその手術法について概説できる。	奥村 一彦
11	口唇・口蓋裂の総合的治療1	口唇・口蓋裂の総合的治療としてのチーム医療について概説できる。 成長に応じた口唇・口蓋裂の治療の流れを概説できる。 哺乳障害の治療を概説できる。	奥村 一彦
12	口唇・口蓋裂の総合的治療1	口唇口蓋裂患者の顎・咬合の特徴を概説できる。 顎裂部骨移植術について概説できる。 口蓋裂患者に合併する頻度が高い滲出性中耳炎について概説できる。	奥村 一彦
13	損傷総論・創傷の治癒総論	損傷について概説できる。 創傷治癒に関与する細胞とその治癒過程を概説できる。	志茂 剛
14	軟組織の損傷	軟組織損傷を分類し、それぞれの症状と処置法について概説できる。	志茂 剛
15	歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷	歯の外傷の原因と種類を概説できる。 歯の外傷の症状、診断法及び治療法について概説できる。 歯槽骨の外傷の症状、診断法及び治療法について概説できる。	志茂 剛
16	骨折の種類と特徴	骨折の種類と特徴及び治癒過程について概説できる。	志茂 剛
17	骨折治療総論	骨折の治療原則について概説できる。	志茂 剛
18	外傷の検査法・手術法	外傷の検査法・手術法について概説できる。	志茂 剛
19	顎顔面骨折	顎顔面骨折の原因と種類について概説できる。 上顎骨骨折の症状、診断法及び治療法について概説できる。	志茂 剛
20	顎骨骨折	上顎骨骨折(Le Fort型骨折)と下顎骨骨折の症状・診断法及び治療法について概説できる。	志茂 剛
21	炎症の病理1	炎症の5大徴候について概説できる。 炎症の経過について概説できる。 急性炎症の際の好中球の動員とその役割について概説できる。 炎症で必要になる生体防御機構について概説できる。	奥村 一彦
22	炎症の病理2	炎症に必要な自然免疫と獲得免疫について概説できる。 炎症に必要なワクチン療法について概説できる。 炎症に必要な免疫グロブリンについて概説できる。 急性炎症でみられる徴候と検査について概説できる。	奥村 一彦
23	歯性感染症の原因菌と感染経路	歯性感染症の原因菌と感染経路について概説できる。 歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法及び治療法について概説できる。	奥村 一彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
24	顎顔面の炎症性疾患	主な炎症（舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、歯性上顎洞炎等）について概説できる。	奥村 一彦
25	口腔顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴	口腔顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴について概説できる。	奥村 一彦
26	口腔顎顔面領域の炎症拡大・波及経路	口腔顎顔面領域の炎症拡大・波及経路における組織隙について概説できる。	奥村 一彦
27	口腔顎顔面領域のリンパ節炎 消炎法	口腔顎顔面領域のリンパ節炎について概説できる。 消炎療法の意義と特徴について概説できる。 消炎手術について概説できる。	奥村 一彦
28	腫瘍（腫瘍総論）	口腔顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法（組織診、画像診断）及び治療法について概説できる。	永易 裕樹
29	非歯原性良性腫瘍	非歯原性良性腫瘍の種類と特徴について概説できる。	永易 裕樹
30	歯原性良性腫瘍	歯原性良性腫瘍の種類と特徴について概説できる。	永易 裕樹
31	エナメル上皮腫	エナメル上皮腫の特徴、症状及び治療法について概説できる。	永易 裕樹
32	良性腫瘍の治療法	良性腫瘍の治療法について概説できる。	永易 裕樹
33	腫瘍類似疾患	腫瘍類似疾患の概念と各々の疾患とその対応について概説できる。	永易 裕樹
34	悪性腫瘍総論	上皮性と非上皮性の悪性腫瘍について概説できる。	永易 裕樹
35	悪性腫瘍の発生要因・疫学及び診断に必要な検査	悪性腫瘍の発生要因・疫学について概説できる。 悪性腫瘍の診断に必要な検査について概説できる。	永易 裕樹
36	口腔癌総論	口腔癌の発症要因。診断及び治療法について概説できる。	永易 裕樹
37	口腔・顎顔面領域の肉腫	口腔・顎顔面領域で発生する肉腫について診断と治療法について概説できる。	永易 裕樹
38	口腔潜在的悪性疾患	口腔潜在的悪性疾患の診断と治療法について概説できる。	永易 裕樹
39	口腔領域の悪性腫瘍の治療法	口腔領域の悪性腫瘍の治療法について概説できる。	永易 裕樹
40	悪性腫瘍治療前後の患者管理	悪性腫瘍治療前後の患者管理について概説できる。	永易 裕樹
41	悪性腫瘍患者のターミナルケア	悪性腫瘍患者のターミナルケアについて概説できる。	永易 裕樹
42	Osteotomies of the face, from the mandible to cranio-facial surgery.	頭蓋顎顔面変形における顎外科手術から頭蓋・顔面外科手術について概説できる。	Berthold H Hell 永易 裕樹
43	顎矯正手術・顎骨形成術	顎変形症手術について概説できる。 顎骨形成術について概説できる。	志茂 剛
44	骨移植術・骨延長術・上顎洞挙上術	デンタルインプラントについて概説できる。 骨移植術について概説できる。 骨延長術について概説できる。 上顎洞挙上術について概説できる。	志茂 剛
45	顎・顔面の変形をきたす疾患	顎・顔面の変形をきたす疾患について概説できる。	佐々木 朗
46	顎変形症	顎変形症とその治療法について概説できる。	佐々木 朗
47	嚢胞総論	口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法について概説できる。	村田 勝
48	顎骨に発生する嚢胞	顎骨に発生する嚢胞の種類と特徴を概説できる。	村田 勝
49	顎骨に発生する歯原性嚢胞	顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴について概説できる。	村田 勝

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
50	顎骨に発生する非歯原性嚢胞	顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴について概説できる。	村田 勝
51	術後性上顎嚢胞	術後性上顎嚢胞の症状、診断法及び治療法について概説できる。	村田 勝
52	軟組織に発生する嚢胞	軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を概説できる。	村田 勝
53	顎関節の構造・機能及び顎関節疾患総論	顎関節の構造と機能について概説できる。 顎関節疾患の種類と特徴について概説できる。	奥村 一彦
54	顎関節疾患の画像検査	顎関節疾患の画像検査について概説できる。	奥村 一彦
55	顎関節疾患各論	顎関節疾患（外傷、脱臼、炎症、顎関節症、顎関節強直症）の症状、診断法及び治療法について概説できる。	奥村 一彦
56	唾液腺疾患	唾石症の特徴、症状、診断法及び治療法について概説できる。 唾液腺炎の種類と特徴、症状、診断法及び治療法について概説できる。 流行性耳下腺炎の原因ウイルス、症状及び治療について概説できる。 小唾液腺疾患について概説できる。	村田 勝
57	唾液腺腫瘍	唾液腺腫瘍の種類と特徴、症状、診断法及び治療法について概説できる。	村田 勝
58	Sjögren症候群・IgG4関連唾液腺疾患	Sjögren症候群の特徴、症状、診断法及び治療法について概説できる。 IgG4関連唾液腺疾患について概説できる。	村田 勝
59	唾液腺疾患の治療	唾液腺疾患の治療法について概説できる。	村田 勝
60	抗菌薬の適正使用と薬剤耐性対策	感染症及び術野感染予防について抗菌薬の適正使用と薬剤耐性対策について概説できる。	奥村 一彦
61	全身と口腔疾患(HIV)	ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症の検査法とその口腔症状と検査法について概説できる。	武田 成浩
62	全身と口腔疾患(代謝疾患・ビタミン欠乏症)	口腔・顎顔面領域に症状を現す代謝障害とその症状について概説できる。 口腔・顎顔面領域に症状を現すビタミン欠乏症とその症状について概説できる。	佐々木 智也
63	心因性疾患(総論)	心身相関について概説できる。 歯科心身症について概説できる。 心理テストについて概説できる。	松岡 紘史
64	心因性疾患(各論)	口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みについて概説できる。 舌痛症について概説できる。 歯科治療恐怖症について概説できる。 心身医学的治療について概説できる。	松岡 紘史
65	全身と口腔疾患(感染症)	口腔・顎顔面領域に症状を現す全身感染症とその症状について概説できる。	南田 康人
66	全身と口腔疾患(アレルギー・膠原病・自己免疫疾患)	口腔・顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、自己免疫疾患とそれらの症状について概説できる。	原田 文也
67	全身と口腔疾患(腫瘍・腫瘍類似疾患・骨疾患)	口腔・顎顔面領域に症状をあらわす全身的な腫瘍と腫瘍類似疾患及びその症状について概説できる。 口腔・顎顔面領域に症状をあらわす系統的骨疾患の症状、診断及び治療法について概説できる。	平木 大地
68	口腔粘膜疾患総論	口腔粘膜の基本構造を概説できる。 口腔粘膜に出現する発疹について概説できる。	奥村 一彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
69	口腔粘膜疾患1	薬疹でみられる紅斑について概説できる。 血液が漏出してできる紫斑とその徴候がみられる疾患について概説できる。 色素沈着斑とその徴候がみられる疾患について概説できる。 白斑とその徴候がみられる疾患について概説できる。	奥村 一彦
70	口腔粘膜疾患2	小水疱とその徴候がみられる疾患について概説できる。 水疱とその徴候がみられる疾患について概説できる。	奥村 一彦
71	口腔粘膜疾患3	びらんと潰瘍について概説できる。 びらんと潰瘍を徴候とする疾患について概説できる。	奥村 一彦
72	頭蓋顔面に異常がみられる症候群	口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状及び診断法について概説できる。	奥村 一彦
73	歯根嚢胞摘出術・歯根尖切除術	歯根嚢胞摘出術について概説できる。 歯根尖切除術について概説できる。	佐々木 智也
74	小手術器具とその使用法	小手術に必要な器具とその使用法について概説できる。	淀川 慎太郎
75	スクリーニング検査	口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患のスクリーニング検査法について概説できる。	淀川 慎太郎
76	血液疾患	口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患について概説できる。	淀川 慎太郎
77	出血性素因	口腔・顎顔面領域に症状を現す出血性素因について概説できる。	淀川 慎太郎
78	閉塞性睡眠時無呼吸症	閉塞性睡眠時無呼吸症について概説できる。	淀川 慎太郎
79	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	慢性閉塞性肺疾患(COPD)について概説できる。	淀川 慎太郎
80	口腔・顎顔面領域の神経疾患	三叉神経痛の原因、症状について概説できる。 顔面神経麻痺の原因、症状について概説できる。 三叉神経麻痺の原因、症状について概説できる。 舌咽神経痛の原因、症状について概説できる。	永易 裕樹
81	口腔・顎顔面領域の神経疾患に対する治療	三叉神経痛の治療法について概説できる。 顔面神経麻痺の治療法について概説できる。 三叉神経麻痺の治療法について概説できる。 舌咽神経痛の治療法について概説できる。	永易 裕樹
82	薬物の副作用	口腔・顎顔面領域に症状をきたす薬物の副作用について概説できる。	南田 康人
83	手術学(滅菌・消毒)	手術器具の滅菌と消毒について概説できる。 手指衛生と術野の消毒について概説できる。	堀江 尚弘
84	口腔外科診療の実際:診療所	診療所における口腔外科診療の実際について説明できる。	原田 尚也
85	移植手術・顎顔面補綴治療・補綴前外科処置	移植手術・顎顔面補綴治療について概説できる。 補綴前外科処置について概説できる。	志茂 剛
86	抜歯と小手術の適応症と禁忌症	抜歯の適応症と禁忌症について概説できる。 小手術に対する相対的禁忌への対応、適応症及び禁忌について概説できる。	永易 裕樹
87	抜歯の手技と経過	埋伏智歯の抜歯法について概説できる。 小手術の偶発症と合併症について概説できる。	永易 裕樹
88	切開・止血・縫合	粘膜の切開、剥離に必要な器具の使用法について概説できる。	原田 文也

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		縫合と止血に必要な器具の使用法について概説できる。	
89	全身管理に留意すべき全身疾患・状態	全身管理に留意すべき呼吸器・循環器・消化器・泌尿器・生殖器・神経・運動器・精神・内分泌・免疫疾患について配慮すべき点について概説できる。 小児・高齢者・妊婦について配慮すべき点について概説できる。	永易 裕樹
90	医科歯科連携医療	医科歯科連携医療について概説できる。 社会が求める歯科医療サービスについて概説できる。	芦田 眞治

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

[口腔外科学、（講義）評価方法] 定期試験（100%）

[判定法] 前期、後期試験で、それぞれで60点以上を合格とする。

【教科書】

栗田賢一、覚道健治 編集主幹：口腔外科の疾患と治療 第5版 永末書店 2019年

【参考書】

榎本昭二、道 健一、天笠光雄、小村 健：最新口腔外科学 第5版 医歯薬出版 2017年

奥村一彦：なぜか考える口腔外科 クインテッセンス出版 2016年

日本口腔外科学会編：口腔顎顔面外科学専門用語集 医歯薬出版 2011年

【学修の準備】

指定した教科書の該当ページを事前に読み、疑問点を整理しておくとともに、使用されている専門用語を理解しておくこと(50分)。

前回までの講義内容についてノート、教科書、配付されたプリントを用いて十分な理解をしておくこと(50分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)と当該授業科目の関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために口腔・顎顔面領域疾患の治療法を学修する（専門的実践能力）（専門的実践能力）。
DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために口腔・顎顔面領域疾患の患者への対応法を学修する（多職種が連携するチーム医療）。

【実務経験】

志茂 剛（歯科医師）、奥村 一彦（歯科医師）、武田 成浩（歯科医師）、淀川 慎太郎（歯科医師）、平木 大地（歯科医師）、堀江 尚弘（歯科医師）永易 裕樹（歯科医師）、佐々木 智也（歯科医師）、南田 康人（歯科医師）、原田 文也（歯科医師）、久原 啓資（歯科医師）、村田 勝（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

口腔外科学は、口腔を構成する組織、器官を含んだ顎顔面領域で発症する疾患を対象として、主に手術療法の対象となる疾患の診断と治療を行って機能的、形態的回復を通じて、患者の全身の健康の維持や回復に寄与する臨床科目である。また、口腔外科学は医学と歯学の共通の場であることから、幅広い実務経験を持った教員が臨床の場ですぐ実践できる手技と理論をもとに講義を行う。